

自<sup>リ</sup>古<sup>い</sup>卿<sup>てい</sup>相<sup>へ</sup>達<sup>く</sup>官<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>先<sup>ニ</sup>困<sup>シ</sup>苦<sup>テ</sup>後<sup>ニ</sup>乃<sup>チ</sup>貴<sup>シ</sup>。何<sup>ノ</sup>前<sup>シ</sup>  
 後<sup>レ</sup>之<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>均<sup>シ</sup>也<sup>カ</sup>。方<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>困<sup>ス</sup>苦<sup>ニ</sup>造<sup>ス</sup>物<sup>者</sup>者<sup>ハ</sup>豈<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>能<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>  
 其<sup>ノ</sup>後<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>所<sup>レ</sup>享<sup>ム</sup>予<sup>メ</sup>以<sup>テ</sup>与<sup>ヘ</sup>之<sup>ニ</sup>、稍<sup>ヤ</sup>以<sup>テ</sup>拯<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。

(倪思『經鉅堂雜志』による)

(注)

造物者——万物を創造するもの。天地万物の支配者。

問

傍線部A「造物者豈不能以下其後之所享予以与之、稍以拯之」とは、どのようなことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 造物者は万能とはいえ、将来与えられる地位をあらかじめ与えて、困苦する人を救い出すことまではできない、ということ。
- ② 万能である造物者は、その人が将来に得る地位をあらかじめ付与して、困窮をやわらげることできるはずだ、ということ。
- ③ 万能である造物者は、困苦している人物に対して、将来の地位を予告することによって、未来への希望を与える、ということ。
- ④ 万能である造物者は、その労苦に見合う地位を将来与えることによって、困苦する人物を救済することも可能だ、ということ。
- ⑤ 造物者は万能とはいえ、困窮する人々を救い出して、将来における地位を彼らに保証することまではしない、ということ。

解 答

夫百姓(注1)煦牛クシテウ而耕シ、曝背サラシテ而耘クマギリ、苦勤而不

敢墮者、豈為鳥獸也哉。(注2)粟米、人之上食也。

奈何其以養鳥也。

(賈誼『新書』による)

問 傍線部A「苦勤而不敢墮者、豈為鳥獸也哉」について、(i)返り点の付け方と書き下し文、(ii)その解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(i)

- ① 苦勤而不敢墮者、豈為鳥獸也哉  
苦勤して敢へて墮らざらしめば、豈に鳥獸と為らんや
- ② 苦勤而不敢墮者、豈為鳥獸也哉  
苦勤して敢へて墮らざるは、豈に鳥獸の為らんや
- ③ 苦勤而不敢墮者、豈為鳥獸也哉  
勤めて敢へて墮らざるに苦しむ者は、豈に鳥獸の為らんや
- ④ 苦勤而不敢墮者、豈為鳥獸也哉  
勤めて敢へて墮らざるに苦しむ者は、豈に鳥獸と為らんや
- ⑤ 苦勤而不敢墮者、豈為鳥獸也哉  
勤めて敢へて墮らざるに苦しめば、豈に鳥獸と為らんや

(ii)

- ① 勤勉に働き、なまけ心を起こさない人々は、鳥や獣に田畑を荒らされないはずだ。
- ② 人々がなまけずに働くのは、鳥や獣のように飢えたり凍えたりしないためである。
- ③ なまけがちな人々を働かせることに苦心するのは、鳥や獣を養うためではない。
- ④ 勤勉に働き、なまけようとしなない人々は、鳥や獣のように食料を奪いあうことはない。
- ⑤ 人々が苦勞して働き、なまけようとしなないのは、鳥や獣のえさを作るためではない。

(注)

- 1 煦——養い育てる。  
2 粟——実の入った粃。

解答

(ii)	(i)

獄吏引<sup>キテ</sup>一人<sup>ヲ</sup>至<sup>ル</sup>。曰<sup>ハク</sup>、「此<sup>ノ</sup>人生<sup>トキル</sup>常<sup>カフテ</sup>殺<sup>スモ</sup>人<sup>ヲ</sup>、幸<sup>ヒニ</sup>免<sup>ル</sup>死<sup>ヲ</sup>。今<sup>シテ</sup>当<sup>ニ</sup>還<sup>ス</sup>命<sup>ヲ</sup>。」其人<sup>ノ</sup>倉<sup>キウ</sup>皇<sup>クワウ</sup>妄<sup>ミダ</sup>言<sup>フ</sup>亦<sup>タ</sup>有<sup>リト</sup>黄<sup>ノ</sup>。冥<sup>メイ</sup>官<sup>ノ</sup>大<sup>イ</sup>怒<sup>リ</sup>。詰<sup>ナジリテ</sup>之<sup>ヲ</sup>曰<sup>ハク</sup>、「蛇<sup>注3</sup>・牛<sup>ノ</sup>黄<sup>ノ</sup>皆<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup>薬<sup>ニ</sup>。天下<sup>ノ</sup>所<sup>ナリ</sup>共<sup>ニ</sup>知<sup>ル</sup>。汝<sup>ハ</sup>為<sup>レ</sup>人<sup>ト</sup>、何<sup>レ</sup>黄<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>有<sup>ル</sup>。」左右<sup>ノ</sup>交<sup>シ</sup>訊<sup>ス</sup>。其人<sup>ノ</sup>窘<sup>クヨウ</sup>甚<sup>ク</sup>。曰<sup>ハク</sup>、「某<sup>ニハ</sup>別<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>黄<sup>ノ</sup>。但<sup>ダ</sup>有<sup>ル</sup>些<sup>カサ</sup>慚<sup>ハク</sup>惶<sup>ク</sup>。」

(孫宗鑑『西齋瑣録』による)

(注)

- 1 倉皇——あわてて。
- 2 冥官——冥界の裁判官。古来中国では、死後の世界にも役所があり、冥官が死者の生前の行いによって死後の処遇を決すると考えられていた。
- 3 蛇黄・牛黄——ともに薬の名。蛇の腹や牛の肝からとるとされる。
- 4 慚惶——恥じて恐れ入ること。

問 傍線部A「汝為<sup>レ</sup>人、何黄之有<sup>ル</sup>」の書き下し文として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 汝の人と為り、何れの黄の有るや
- ② 汝は人の為に、何ぞ黄の之れ有らん
- ③ 汝は人為り、何の黄か之れ有らん
- ④ 汝は人を為りて、何をか黄の有るや
- ⑤ 汝の人を為むるや、何れに黄の之く有るか

解 答